

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言

～宣言を実効あるものに・1つの提言と2つのお願い～

山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄

1. 携帯トイレは黎明期から普及期へ

2000年頃までは携帯トイレについて多くの登山者は知らなかったし、使った人もほとんどいなかった。

北海道（以下、道）は、2000年（H12年）から5年間、「山岳環境改善事業」として大雪山国立公園の避難小屋トイレのし尿搬出、バイオトイレの設置、携帯トイレの普及啓発等に取り組んだ。また、携帯トイレブース、使用済み携帯トイレ回収ボックスも各所に整備した。道の無料携帯トイレの配布や啓発活動もあったが、継続した機運とはならなかった。

しかし、携帯トイレの必要性は経年と共に話題になり、山岳トイレを整備することが困難な山域などで徐々に使用する人が増えてきた。登山者は自分の排泄物を持ち帰ることに抵抗感があり、黎明期には携帯トイレの普及は無理だとの意見も多くあったが、現在は必要な山域では、登山者が携帯トイレを必須の装備としてザックに入れ、当然のように使用するようになってきた。20年間の歳月と共に登山者の意識も行動も徐々に変化してきたのである。

2. 宣言は協働の成果のバックボーン

環境省は、2015年から美瑛富士避難小屋（以下、美瑛富士）へテント型携帯トイレブースを設置し、携帯トイレシステムの試行を始めた。ブースの維持管理は、北海道の山岳9団体で構成する美瑛富士トイレ管理連絡会（以下 美瑛トイレ連絡会）が担い、回収ボックスの維持管理、使用済み携帯トイレの処分は美瑛町が担う役割分担で行った。試行の結果、必要性和効果が明確になり2019年に環境省によって待望の固定式携帯トイレブースが新設された。

また、2017年からトムラウシ南沼野営指定地（以下 南沼）のトイレ問題解決のため道十勝総合振興局（以下、振興局）は、4年間の事業を始めた。振興局が事務局となり8団体で構成した「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」を発足、改善に向けて取り組んだ。2019年には南沼に固定式トイレブース1基を増設する成果となった。

2018年7月「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が発表・採択され、大雪山のトイレ問題の改善に向け明確な目標ができた。これが前述の成果の後押しをしたのである。

北海道の山岳地域では、携帯トイレ回収ボックスも増え、携帯トイレを使う環境整備が進んだ。これらも行政と利用者（登山者等）が同じ目的に向かって取り組んできた協働の成果である。協働はお互いに信頼関係が無いと成り立たない。対等の立場でコミュニケーションを積極的に行い、目的を達成するために決めた役割はキチンとやることで成果が現れてくると思う。

3. 更に宣言を実効のあがるものとするために

環境省（上川・東川・上士幌自然保護官事務所）は「大雪山国立公園におけるトイレの現状」を一覧にして作成した（2019年12月16日現在）【別表】。この中で回収ボックスの維持管理と使用済み携帯トイレの処分を担う自治体を明確に示したことを評価したい。関係自治体と情報を共有することは、携帯トイレシステムが円滑に運営される重要なポイントである。

この一覧から最近の5年間（2015年～2019年）で整備された携帯トイレブースと回収ボックスについてリストアップしてみた。

携帯トイレブースは美瑛富士のテント型から固定式へ、南沼は1基増設されたことは先に述べた。注目したのは2019年に大雪山国立公園連絡協議会が3カ所（中岳温泉、赤岳山頂、高原温泉沼巡りコース緑沼）に期間限定でテント型携帯トイレブースを設置したことである。このことはメディアでも報道され、普及宣言に対する協議会の本気度が感じられるものであった。

回収ボックスは2015年に白金観光センターと十勝岳温泉登山口に、2018年には高原温泉登山口と十勝岳望岳台登山口に設置された。

しかし、果たして現在の携帯トイレブースと回収ボックスの設置カ所だけで大雪山国立公園での山岳環境問題（トイレ問題）の改善が図れるのであろうか。現在の大雪山国立公園について必要と思われるのは、表大雪地域の山上で野営指定地にもかかわらずトイレも無く、携帯トイレブースも無い箇所の解消と、主要登山口には必ず回収ボックスを設置することである。

4. 【提言】裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置

裏旭野営指定地（以下、裏旭）に、携帯トイレブースを設置することを提言したい。その理由とブースの方式案、維持管理方法について述べる。

なお、裏旭には2002年に道がトイレブースを設置した記録があるが、その後数年で撤去されたようだ。強風で破損したとの話もあるが真相は分からなかった。



裏旭野営指定地（2017年）



裏旭野営指定地マップ

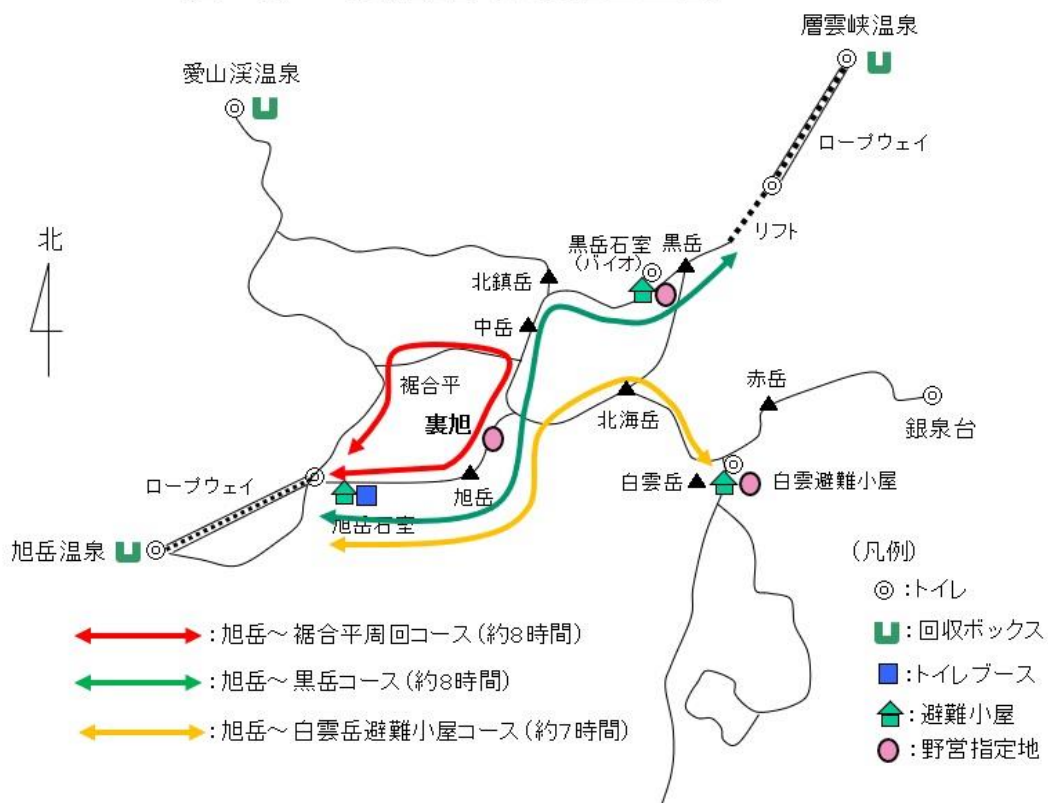
裏旭を俯瞰した写真を【別図－1】に掲載した。

「提言する理由」

- (1) 野営指定地であるがトイレが無い。携帯トイレ使用エリアとして対処する。
- (2) テント泊登山者以外の(縦走)通過登山者へも携帯トイレの使用機会を提供する。
裏旭を通過する登山者には3つのコース(順逆含む)が考えられる。(i)旭岳ロープウェイ駅から旭岳を登って白雲岳避難小屋へ縦走 (ii) 同じく旭岳を登って黒岳石室への縦走 (iii) 同じく旭岳を登ってから間宮岳→中岳分岐→裾合平経由

- で元に戻る周回コースである。3コースの所要時間は約7～8時間で裏旭はその中間地点。登山者は携帯トイレブースがあると安心して登山ができる（図-1）。
- (3) 裏旭の宿泊者数を調査したデータは見当たらないが、通過登山者数は大雪山の中では多い傾向である。通過者（上り下りの合計）は7,300人との調査データがある【別図-2】。
- (4) 携帯トイレブースを設置した場合、整備者だけでなく登山者(利用者)も協働して維持管理していく象徴となる。宣言を具現化するものとなる。

(図-1) 裏旭野営地経由コース



「携帯トイレブースの方式案」

テント型携帯トイレブースは、美瑛富士避難小屋での試行設置において3年連続強風により倒壊した。コストは安いですが、毎年設置と撤収の労力もかかる。裏旭は風が強いテントサイトである。現地では石積みの風よけを利用してテントを張っている。従ってテント型ブースは試行設置の場合にのみ使用できる方式であり、次の2つの固定式案を提案する。

(案1) 木製式トイレブース

⇒イニシャルコストが高いのが難点。基礎工事が必要。強度があり快適に使える。

(案2) 三方石組式トイレブース

⇒現地の石を活用する。コストはそれほどかからない。強度はあるが使用する人は壁がクローズドされていないので、使用時に不安がある。

「設置位置」

現地調査をして設置の適地を選定する必要がある。木製式の場合は、通過登山者も利用し易いように細長い形状の野営地の入り口側、分岐点に近い方、三方石組式の場合は、テントサイトの最奥地が望ましい。また、通過登山者にもブース位置が分かるよう、縦走路と野営地の分岐点に案内標識が必要である。

「維持管理」

裏旭に設置する携帯トイレブースをどのように維持管理していくのか、多くの関係者でアイデアを出し合い協議して合意し、継続できる方法を決めなければならない。

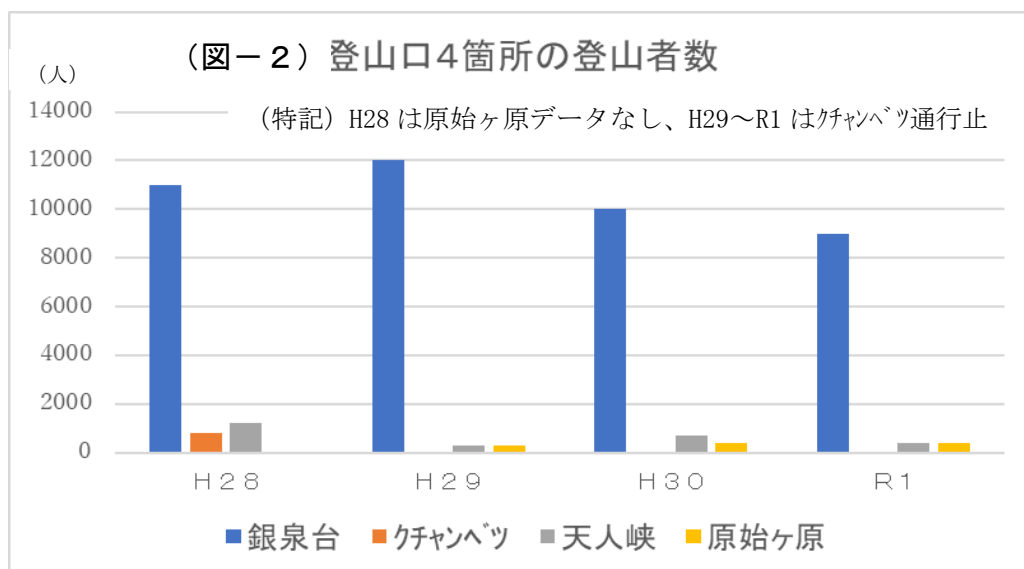
裏旭は多くの登山者、ガイド、自然保護団体などが通過する。裏旭を通過もしくは宿泊した登山者自身が清掃を実施するのがよいと考える。そのために協力してくれる山岳団体を募り覚書を交わして運営する方法も一つだと考える。また一般登山者にも設置したことをSNSなどで広報し、携帯トイレの使用とブースの清掃協力を呼びかける。

ブースの横に清掃をお願いする看板を設置して協力を求め、ブース内に清掃記録簿を備えるなど種々工夫することで維持管理は成り立つと考える。

5. 銀泉台への回収ボックス設置【お願い1】

大雪山国立公園の主な登山口で回収ボックスが無いのは、銀泉台、クチャンベツ、天人峡温泉、原始ヶ原登山口の4箇所である。

環境省国立公園ホームページで公開されている「大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）」によると、銀泉台（第一花園下）の登山者数は他の登山口と比べると格段に多い（図-2）。



先の報文【別図-2】でもこまくさ平～赤岳間の通過者数は11,400人と多い。

登山者は赤岳や白雲岳を目指す日帰り登山者と白雲岳避難小屋に泊まる縦走登山者がいる。日帰り往復の所要時間は約6～7時間とかかるので、途中で携帯トイレを使う人も多いと思われる。銀泉台登山口への回収ボックス設置は必要である。



銀泉台森林パトロール事務所

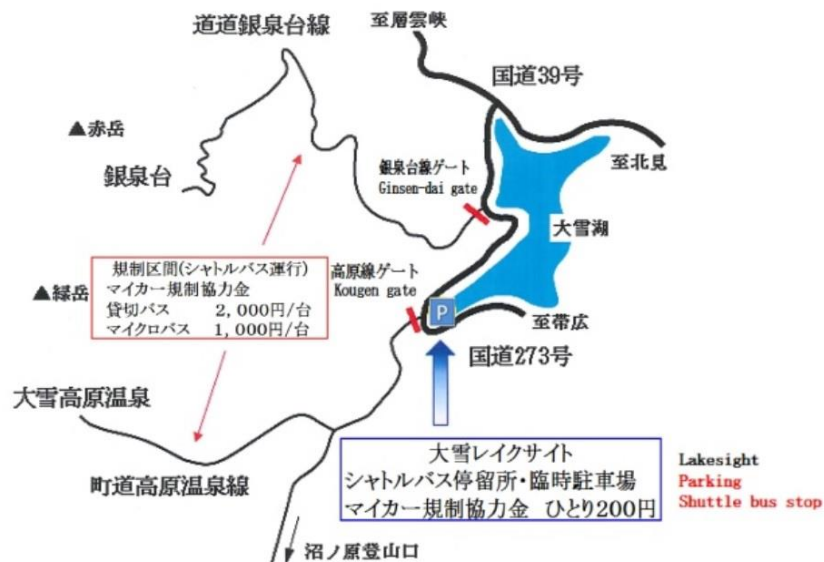


銀泉台登山口トイレ

大雪高原温泉登山口には回収ボックスが設置されている。ここは大雪山高原山荘があり、廃棄物収集車が来る。しかし、銀泉台は国道から15kmあり収集車が来ていないので回収ボックス設置のハードルは高い。最も登山者が集中する紅葉シーズンはマイカー規制されシャトルバスが運行する。この期間だけでも駐車場となる「大雪レイクサイト」に設置してはどうかと考える(図-3)。

大雪山国立公園管理計画で上川町が銀泉台の公衆トイレの設置管理者となっている。回収ボックスの設置について上川町に検討をお願いしたい。設置する場合は銀泉台森林パトロール事務所の壁際が適すると思う。

(図-3) 紅葉期の車両交通規制 (上川町のHPより抜粋)



6. 回収ボックスの標準化【お願い2】

大雪山国立公園に設置している回収ボックスの維持管理と使用済携帯トイレの回収処分は関係自治体に担っていただいている。これまでいろいろな回収ボックスを見てきた経験から標準案を提案する次第である。参考にいただければ幸いである。

回収ボックスにはいろいろな形（商品）のものが設置されており、ゴミ箱では無いことを注意喚起する掲示表示もまちまちである。外国人に対応した多言語表示のものもある。

自治体の担当者は2～3年で異動する。回収ボックスの本体も掲示物も経年劣化し、掲示物は見難くなり、また剥がれたりする。ラミネート加工した掲示物や回収ボックス本体の取り替え時に参考となるよう標準的なものを提案する。採用するかどうかは自治体の担当者に任せるものである。



十勝岳温泉登山口（2015年新設時）



上部は汚れて文字が見難い（2019年）



白金観光センター（2015年新設時）



掲示物が一部剥がれて無い（2019年）

「回収ボックスの標準案」

- (1) 回収ボックスの中にクズ箱（蓋の無いカゴ）を入れる。廃棄物収集者が使用済み携帯トイレに直接接触れることなく回収でき不快な思いをしなくてよい
- (2) 海外の登山者も多く訪れるので掲示は多言語表示をする
- (3) 多くの観光客が訪れる場所ではゴミ箱で無いことを明示し、施錠もする（施錠について）

南京錠の場合は鍵の管理者を明示する。北海道の場合、ダイヤルキーは「530（ゴミゼロ）」で統一している。この番号は2000年からの道の事業で使用した鍵番号をそのまま継承している。入山届箱やゲートに鍵番号を掲示したり、トイレマップに記載したりして周知しているが、分からない人には問い合わせる施設

を明示する。なお回収ボックスは登山者しか利用しないので、箱の側面下などにキーNOを書いておくと登山者は助かると考える。



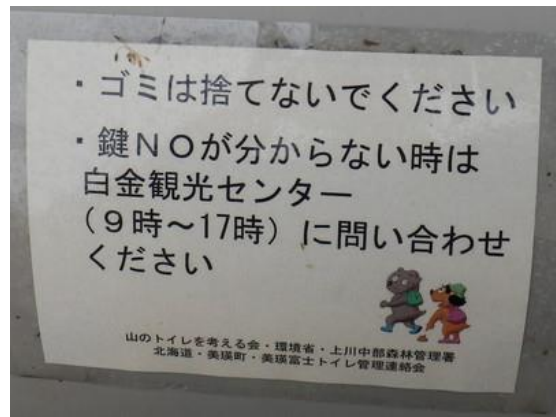
箱の中にさらにクズ箱を入れる



多言語表示（例）



ダイヤルキーは「530」で統一

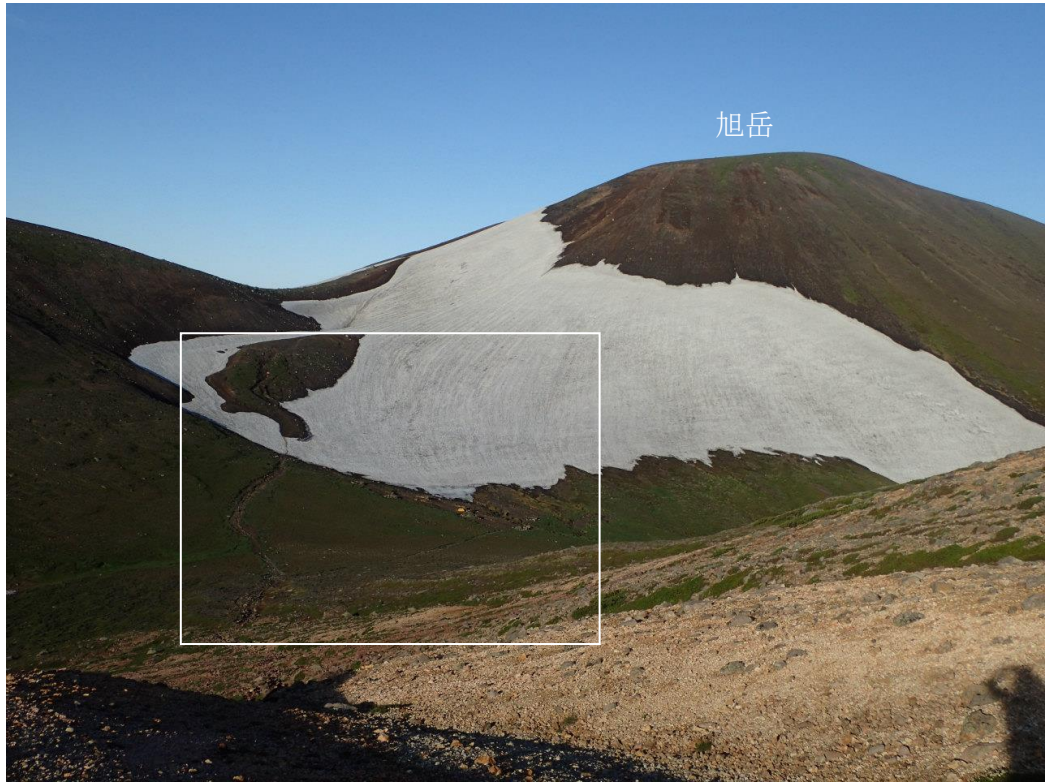


鍵番号の問い合わせ先（例）

以上

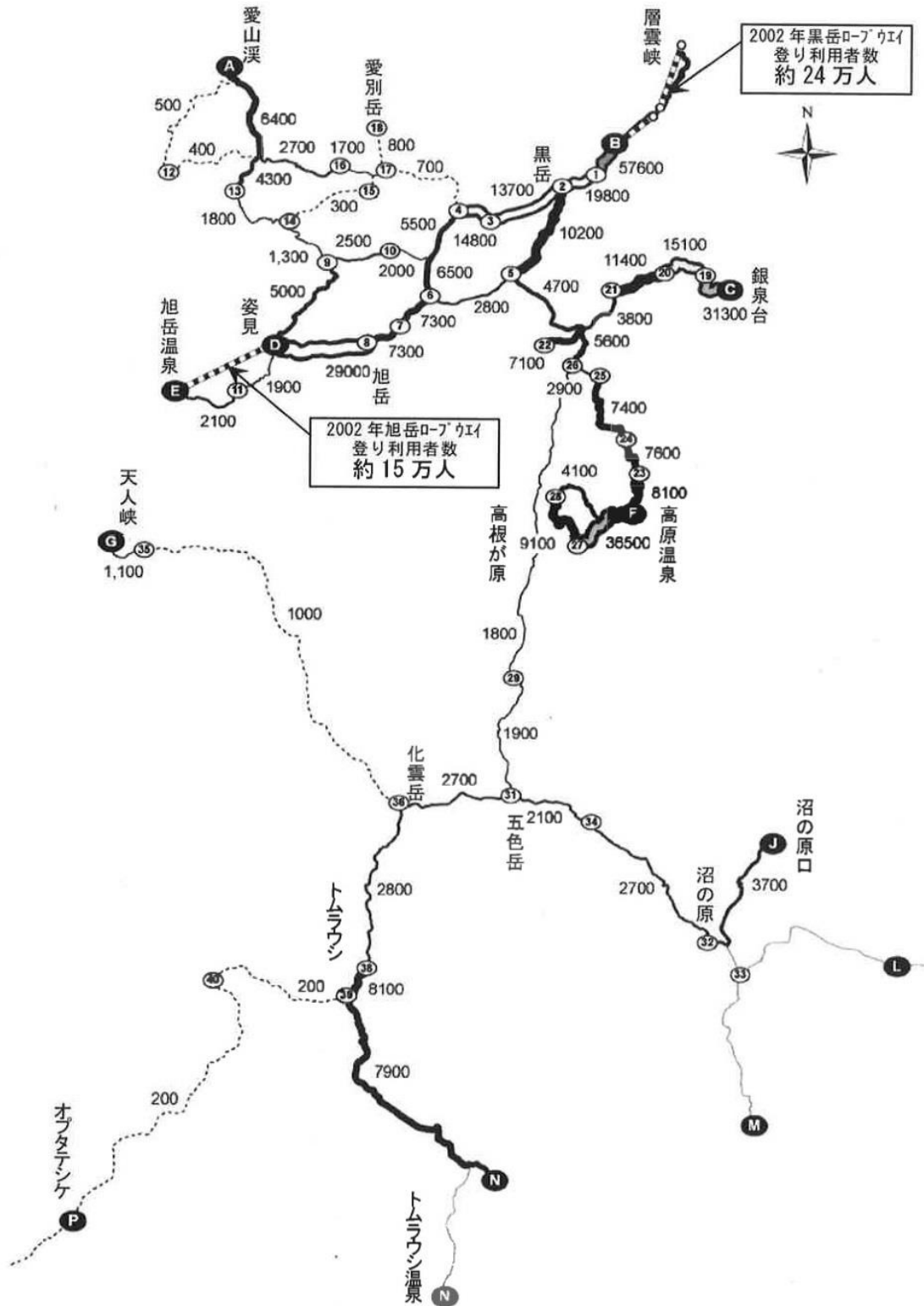
(参考文献)

- ・庄司康・八巻一成：表大雪山登山者入込数実態調査報告書：第7回フォーラム資料集
- ・黒澤大助：2009年大雪山系～十勝連峰のトイレ・山小屋・野営指定地の状況：第11回フォーラム資料集
- ・土栄拓真：携帯トイレ利用適地情報の試案について（大雪山国立公園・旭岳～裾合平コースを事例に）：第13回フォーラム資料集
- ・仲俣善雄：大雪山国立公園での携帯トイレ普及宣言に向けて：第19回フォーラム資料集
- ・環境省国立公園ホームページ「大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）」（平成28年～令和元年）
- ・主要登山口からの登山者数：大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第3回）配布資料・資料1-2【別添】
- ・し尿問題とその対応：大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第3回）配布資料・資料6-1【別添】



登山道と野営指定地（概略図）

入林届けと赤外線カウンターから推計した通過者数
 (2003年6月~10月)



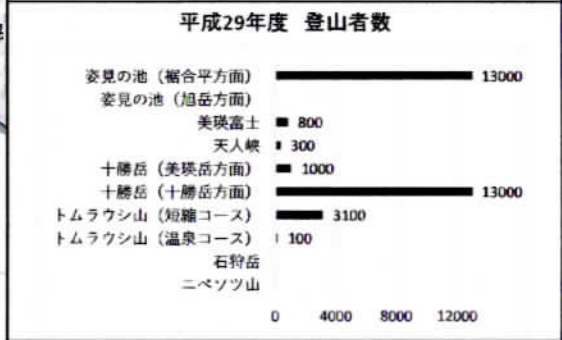
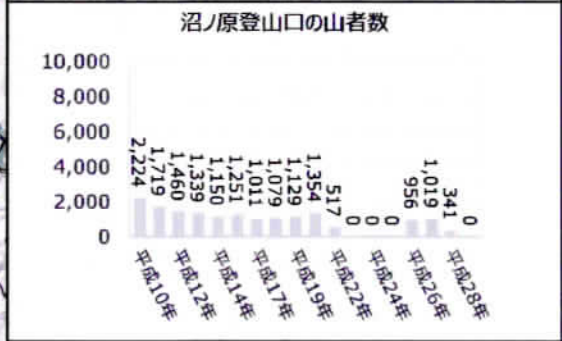
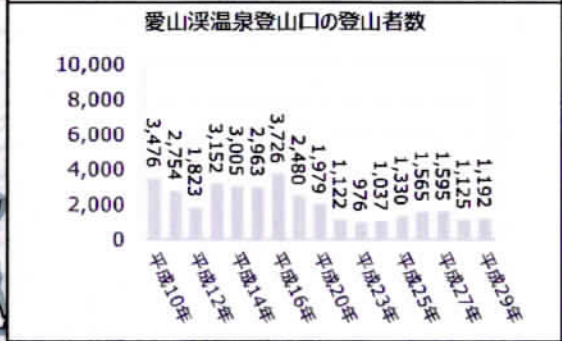
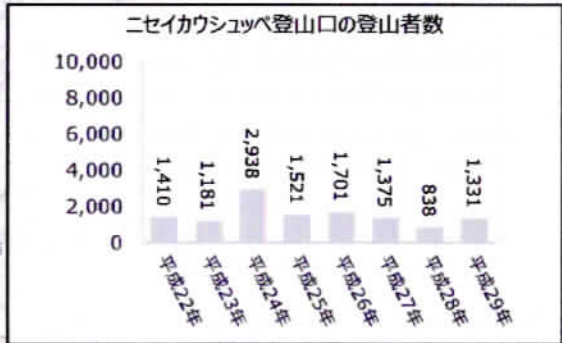
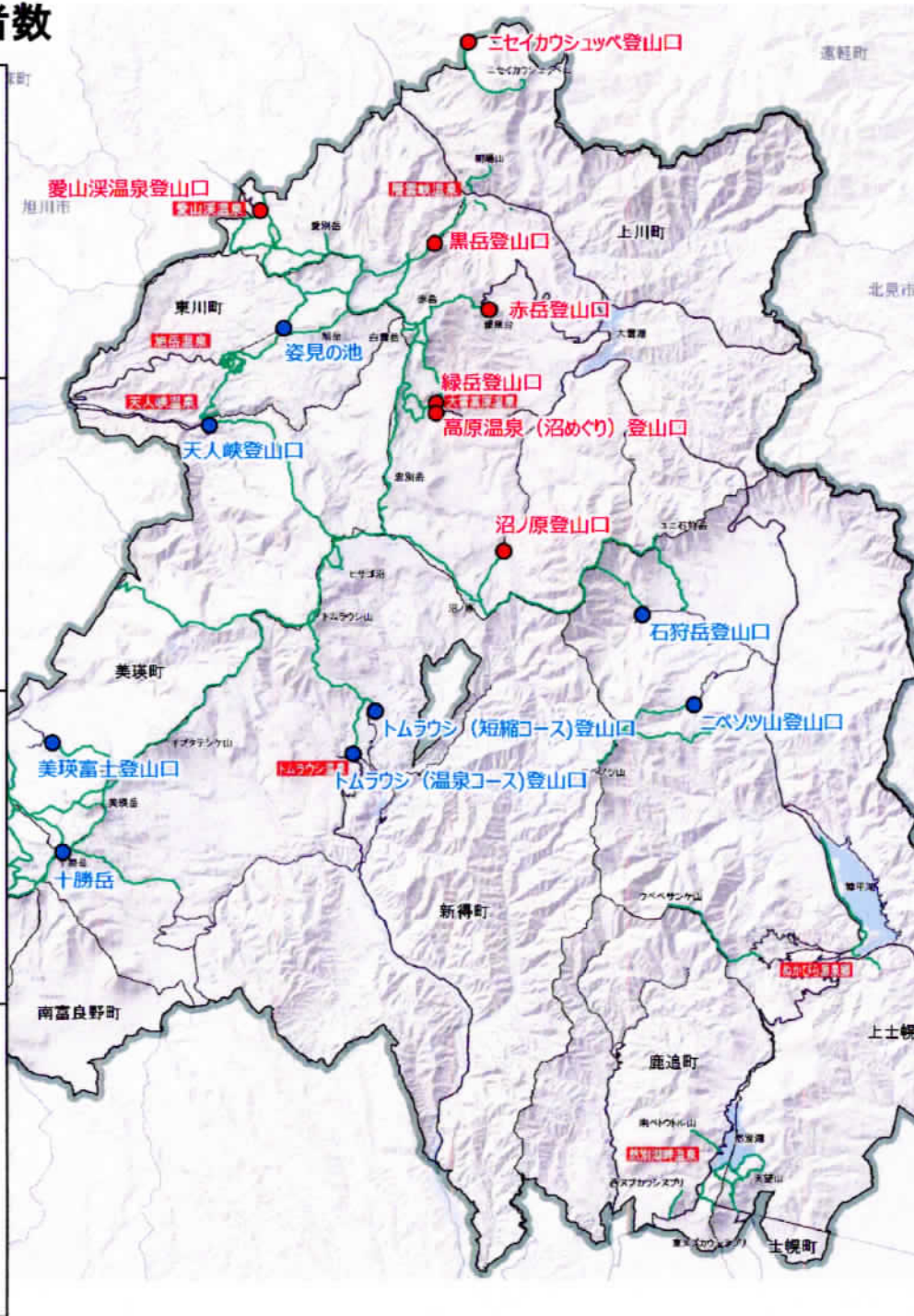
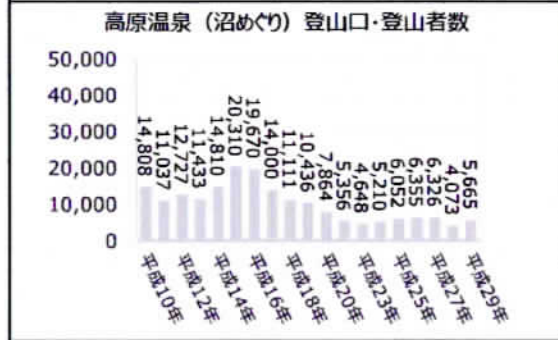
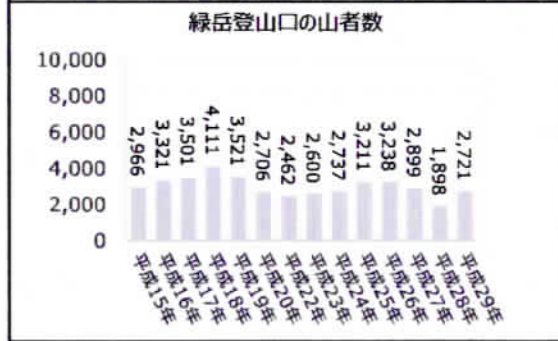
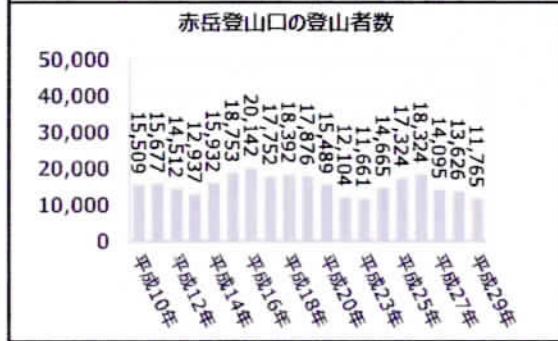
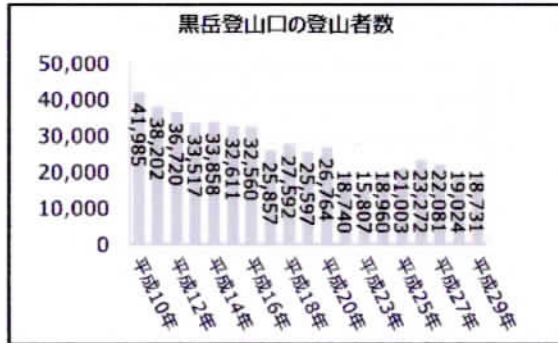
【別表】

大雪山国立公園におけるトイレの現状

2019年12月16日現在
上川・東川・上士幌自然保護官事務所

場所	市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ	野外し尿の状況	携帯トイレブース	回収ボックス	携帯トイレ販売、その他備考
山岳地	黒岳	上川	有(管理人有) (野営指定地)	有	少	無	—	—
	裏旭	東川	無 (野営指定地)	無	少	無	—	—
	白雲岳	上川	有(管理人有) (野営指定地)	有	少	無	—	有 上川総合振興局、上川地区登山道維持管理連絡協議会、山のトイレを考える会で取組
	忠別岳	上川	有 (野営指定地)	有	無	無	—	—
	ヒサゴ沼	新得	有 (野営指定地)	有	無	無	—	—
	南沼	新得、美瑛	無 (野営指定地)	無	多	有	—	—
	沼ノ原大沼	上川	無 (野営指定地)	無	未確認	無	—	—
	ブヨ沼	上士幌、上川	無 (野営指定地)	無	無	無	—	—
	小天狗の科尔	上士幌	無 (野営指定地)	無	無	無	—	—
	ニペソツ山前天狗	上士幌	無 (暫定的な野営指定地)	無	少	有	—	—
	双子池	美瑛、新得	無 (野営指定地)	無	多	無	—	—
	美瑛富士	美瑛、新得	有 (野営指定地)	無	多	有	—	—
	十勝岳避難小屋	美瑛	有	無	無	少	無	—
	上ホロカメットク	上富良野、新得	有 (野営指定地)	有	少	無	—	—
	赤岳	上川	無	無	無	少	有※	—
大雪高原温泉沼めぐり登山コース・緑沼	上川	無	無	無	少	有※	—	※9月下旬のみ、同上
中岳温泉	東川	無	無	無	少	有※	—	※7月中旬のみ、同上
登山口	層雲峡	上川	無	有	有	無	有	設置は環境省、回収は上川町 有 ○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店、7合目売店 ○セイコーマート層雲峡店
	愛山溪温泉	上川	有	無	有	無	有	設置・回収は上川町 有 ○愛山溪倶楽部
	銀泉台	上川	無	無	有	無	無	無 ○マイカー規制シャトルバス発着場(9月中旬)
	大雪高原温泉	上川	有	無	有	無	有	設置は上川地区登山道維持管理連絡協議会、回収は上川町 有 ○大雪高原山荘 ○ヒグマ情報センター ○マイカー規制シャトルバス発着場(9月下旬)
	姿見	東川	有	無	有	無	有	無 有 ○旭岳ビジターセンター ○大雪山旭岳ロープウェイ(姿見駅売店) ○セイコーマート東川店
	旭岳温泉	東川	無	有	有	無	有	設置は振興局、回収は東川町 有 同上
	天人峡	美瑛	無	無	有	無	無	無 ○セイコーマート東川店
	クチャンベツ	上川	無	無	有(仮設)	無	無	無 —
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無	無	無	無 —
	白金温泉望岳台歩道登山口(白金観光センター)	美瑛	無	有	有	無	有	回収は美瑛町 有 ○ホテルパークヒルズ ○湯元白金観光温泉ホテル ○大雪山白金観光ホテル ○白金観光センター
	望岳台	美瑛	無	無	有	無	有	設置・回収は美瑛町 無
	吹上温泉	上富良野	無	有	有	無	有	回収は上富良野町 有 ○白銀荘
	十勝岳温泉	上富良野	無	無	有	無	有	回収は上富良野町 有 ○十勝岳温泉凌雲閣
	原始ヶ原登山口	富良野	有	無	有	無	無	無 —
	シュナイダーコース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	無	無 —
	ユニ石狩岳登山口	上士幌	無	無	無	無	無	無 —
	トムラウシ温泉コース登山口	新得	無	有	有	無	有	設置は北海道、回収は新得町 有 ○トムラウシ温泉東大雪荘 ○セイコーマート屈足店 ○セブンイレブン新得町南店
	トムラウシ短縮コース登山口	新得	無	無	有	無	有	設置は北海道、回収は新得町 有 同上
	十勝岳新得コース登山口	新得	無	無	無	無	無	無 —
	ニペソツ山十六の沢コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町 無
	ニペソツ山幌加温泉コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町 無
	ウペペサンケ山登山口	上士幌	無	無	無	無	無	有 ○ひがし大雪自然館 ○セイコーマートうえだ上士幌店
	天宝山登山口	上士幌	無	有	有	無	無	有 同上
	南ペトウル山登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無 —
	白雲山然別湖側登山口	鹿追	無	無	有(仮設)	無	無	無 —
	白雲山士幌側登山口	士幌	無	有	有	無	無	無 —
	東又プカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	無	無	無	無 —
西又プカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無 —	

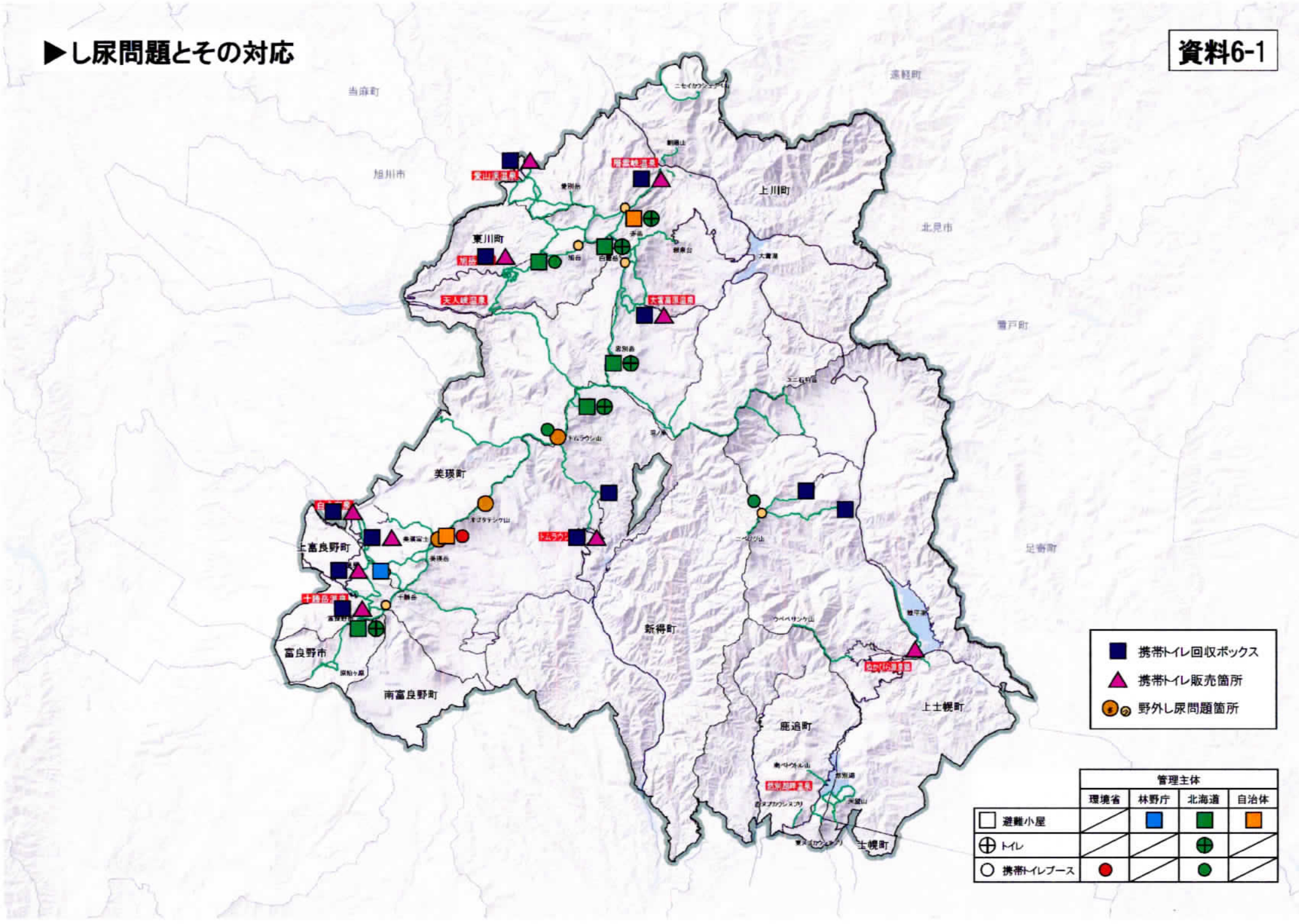
▶ 主要登山口からの登山者数



※上川町役場資料より(ただし、平成17年、18年度は、上川森林事務所資料より) ※林道封鎖の為カウントが0の部分あり

▶し尿問題とその対応

資料6-1



- 携帯トイレ回収ボックス
- ▲ 携帯トイレ販売箇所
- ● 野外し尿問題箇所

	管理主体			
	環境省	林野庁	北海道	自治体
□ 避難小屋				
⊕ トイレ				
○ 携帯トイレブース				